

創立20周年記念事業

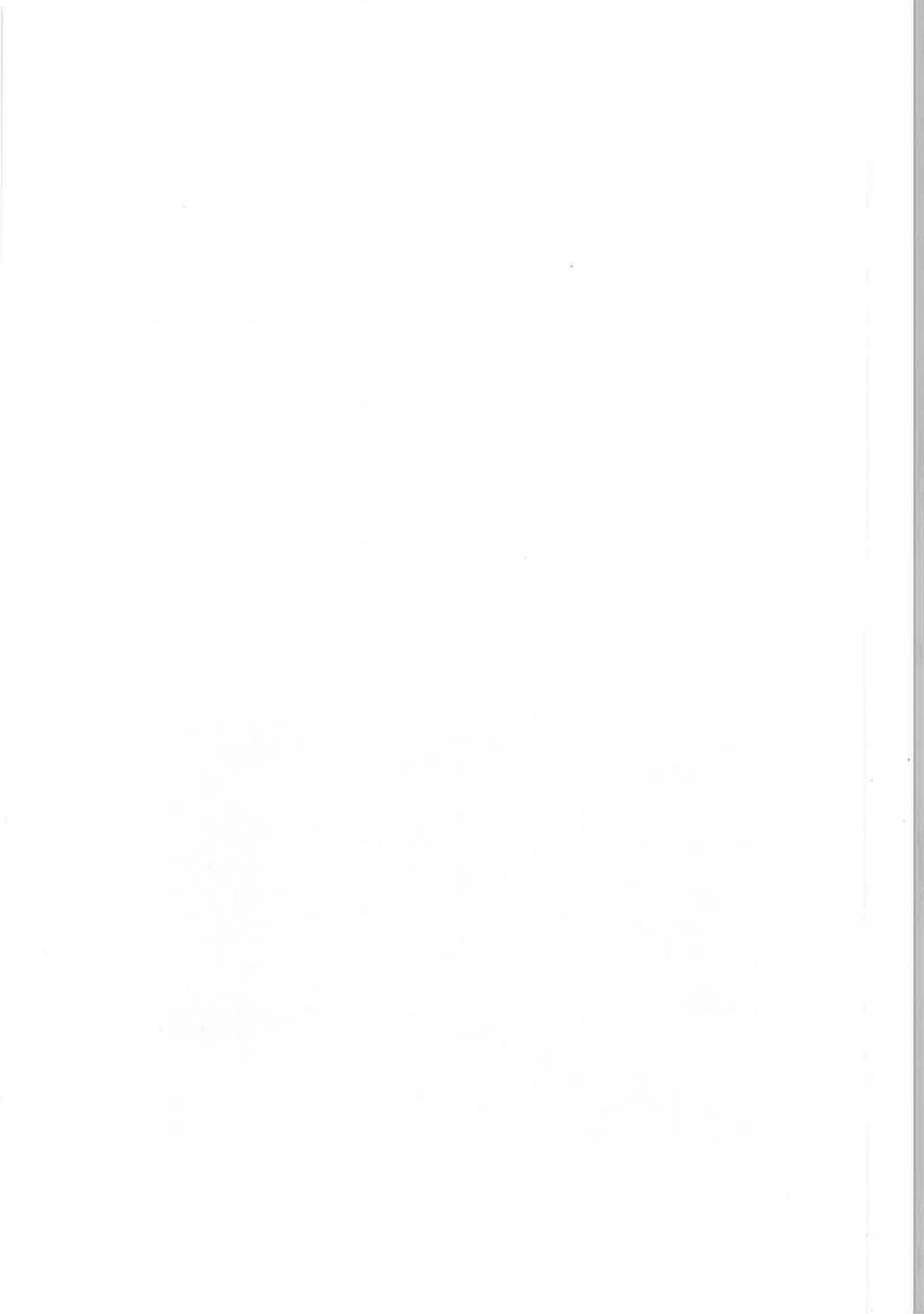
図画・作文コンクール

創立20周年記念式典

創立20周年記念祝賀会

沖縄小児保健賞





沖縄県小児保健協会創立20周年記念事業

「図画・作文」コンクール

琉球新報社との共催で小学生を対象に行った。

表彰式

平成5年7月31日(土) 午後2時～3時
パシフィックホテル沖縄 万座の間(2階)

創立20周年記念式典

平成5年7月31日(土) 午後3時～5時
パシフィックホテル沖縄 万座の間(2階)

創立20周年記念祝賀会

平成5年7月31日(土) 午後5時～7時
パシフィックホテル沖縄 守礼の間

沖縄県小児保健賞の第1回表彰

平成5年7月31日(土)
創立20周年記念式典において

記念誌の発行

「沖縄県小児保健協会20周年のあゆみ」の発行

20周年記念誌編集風景



図画・作文コンクール

20周年記念事業という一大イベントの為に小児保健協会の理事会及び事務局は、2年余年にわたり綿密な企画および検討を重ね、そしてようやくこの日を迎えることができました。なか年少時代に運動会を迎える時の心の躍動に似たものがあり、会長はじめ各理事そして事務局員はきっと競技会を前にして緊張した選手同様に不安の前夜を過ごしたと思います。

その日は受付が12時30分より開始されました。当初事務局はいったいどれだけの参加者が集まってもらえるのかとても不安でした。しかし、その不安を吹き飛ばすように、家族づれ、友達づれ、学校関係者と表彰をうける児童に関係する方々がつぎつぎと会場に訪れてきました。そして会場はすぐに、多数の参加者でにぎやかな雰囲気を醸し出しました。早く訪れた方々は、会場に展示された入選作品を競うように観て回り、感嘆と驚きの声を洩らしていました。そこには表彰式という堅苦しい雰囲気はなく、自分の作品が展示されているのを恥ずかしそうに見ている子どもなど、家族的なわきあいあいとした楽しい雰囲気でした。作品の中の子ども達の感受性の鋭さには、誰もが本当にびっくりするものでした。

図画・作文コンクールの性質上会場は、多くの子ども達で占められており、アットホーム的な雰囲気の中で表彰式を楽しんでいるようでありました。表彰式は予定どおり午後1時より津留文子理事の司会で始まりしました。司会も会場の雰囲気のせい、かなりリラックスしており、まるで司会を楽しんでいるようにも伺えました。引き続き小渡有明小児保健協会長の挨拶で幕開けとなりました。小渡会長は「子ども達の手で

みた今の子ども達の姿が表現されており、とても感動しました。」と挨拶を述べました。続いて市村彦二琉球新報専務より挨拶がありました。市村専務は「読書やスポーツを通じて健全な心身を育てましょう。」と強調されました。

その次には司会により審査員の紹介が行われ、代表として比嘉行男氏が講評をなされました。講評の中には「心にひびく」「単純化した絵の中に多彩な表現がある。」「調和を保ちながら変化がある」「素直に表現できる」等の的確な講評を下さいました。「しかし残念なことに、小学校高学年の作品が少なかった」と指摘もありました。比嘉氏は最後に現場の先生方に感謝を述べられ、講評を終わりました。

続いて特賞に輝いた作文の朗読となりました。朗読するのは作文を書いた本人にしてもらうことになりました。

まず最初は佐敷小学校2年のはしろだいち君が「お父さんの入院」を元気よく読み上げました。マイクに辛うじて届いているのにもかかわらず、一生懸命きびきびとした大きな声で読み上げ会場より大きな拍手をもらいました。

次は名護小学校3年津波みなみさんの「許田しょうごさんのこと」という作品を読みあげました。会場はシーンと静まりかえり、目頭を熱くする人も多数いました。子ども達の中にも、こんなに素晴らしい友情があるのかと、深く心を打たれました。

次は具志川小学校4年義田真子さんの「いいよの言える友だち」の朗読で、いじめっこにも負けないように頑張ろうというけなげな気持ちが伝わってきました。

最後は兼原小学校5年吉田紗綾さんの「私の

おじいちゃんとおばあちゃん」の朗読でやはり小学高学年らしい態度で、またしっかりとした口調で最後をまとめました。おじいちゃん、おばあちゃんの日常での様子が目の前に浮かんでくるようでした。

いよいよ朗読が終わると表彰式となりました。名前を呼ばれると、大きな声で返事する子、元気に壇上に上がる子、礼儀正しくもらう子と、子ども達の個性が現れました。賞状、賞品がその子の体に比べて大きすぎるので、階段から危うく落ちそうになる子、またそれを見て担任の先生、父兄が急いで駆けつけたり、微笑ましい

光景があり、なかなか忙しい楽しい表彰式でした。しかし、事務局は一方では、はらはらしていたのではないのでしょうか。学校別の表彰にうつるころには、会場は立ち見席もでるほどとなり、ますます賑やかとなりました。

表彰式の閉会の挨拶は、今回のコンクールに影のコーディネーターとして活躍なさった石川清治先生が「子ども達に何かをして上げることがこんなにも楽しいことなのか」と感想を述べ子ども達の健やかな発展を祈り閉会の辞として表彰式が全て終了しました。

理事 宮城雅也

えー おっほん
これより表彰式を行います。



〔Ⅰ〕表彰式プログラム

- 1 主催者あいさつ
 沖縄県小児保健協会会長 小渡有明
 琉球新報社専務 市村彦二
- 2 審査講評
 図画・作文 比嘉行男
- 3 作文朗読（４名）
- 4 特賞の表彰式（８名）
 図画の部 沖縄県小児保健協会会長
 作文の部 琉球新報社専務
- 5 表彰式（３４名）
 学校別の表彰 沖縄県小児保健協会会長
- 6 閉会のあいさつ 石川清治

〔Ⅱ〕審査員名簿

- （図画の部） ４人
- 島袋文雄 元、安謝小学校校長
 大西栄保 元、与儀小学校教頭
 比嘉行男 元、宮里小学校教務主任
 米野元康一 知念小学校教諭
- （作文の部） ６名
- 与儀利夫 元、若狭小学校校長
 儀間朝善 知念小学校校長
 兼島昌子 津嘉山小学校教諭
 新垣ゆき 元、泊小学校教諭
 竹本祐子 白川小学校教諭
 佐竹友江 泊小学校教諭

＝順不同＝

新聞紙上審査講評者

- （図画の部）
 比嘉行男
- （作文の部）
 与儀利夫

〔Ⅲ〕作品

応募数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
図画の部	105	115	85	54	45	9	413
作文の部	1	10	13	10	38	8	80
計	106	125	98	64	83	17	493

入賞者表

図画の部	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
特賞	1	1	1	1	—	—	4
優秀賞	5	5	5	3	1	1	20
佳作	13	12	10	8	3	2	48
入選	43	46	31	20	6	4	150
計	62	64	47	32	10	7	222
作文の部	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
特賞	—	1	1	1	1	—	4
優秀賞	1	3	2	2	3	1	12
佳作	—	6	—	3	10	2	21
入選	—	—	9	4	17	3	33
計	1	10	12	10	31	6	70

〔Ⅳ〕入賞者名簿

図画の部

1年

【特賞】

(真和志) あさとまさとら

【優秀賞】

(与那城) 高良麻乃 (北美) ひやねまさ

し (坂田) いがわのりこ (真和志) ぐし
けんまなみ、ともしりゅういちろう

【佳作】

(北美) いはまさし、やましろさおり、た
からのぞみ、おおしろいっき (坂田) きな
みお、きなゆりえ (真和志) くりまあさの、
あさとりな、なかみねかおり、しもじゆうす
け (大原) ふくちあかね、さじひかる、は

やたえみ

【入選】

(名護) 大城仙一郎、崎浜圭奈、比嘉愛里
(与那城) 長浜鈴香、赤嶺慎吾、長濱真奈美、
竹島恵理香、神谷紗希、もりねゆりか、森根
美咲、藏根温子、仲田翔子、のぼりかわあや
の (川崎) かねしまあや (北美) さくだ
ともひろ、みやぎなおこ、ひらたかよこ、な
かそねとしゆき (坂田) いしみねつねたか、
みやぎたつき、ちばなあや、おおみねありさ、
ごやえりこ、にしひらしょう、めかるあきら、
なかもとゆうや、しろまゆみ、しもじまりこ、
しんざとたけし、いけみやぎしゅうた、ぐし
けんともゆき、いはりの、さくまはやみ、ま
つだりな、なかそねあゆみ、アサヌガラ、い
ずみかわまゆみ、たまなはしょうこ、たまき
だいすけ (真和志) たかみねしょうご
(大原) かんばらともこ、とみもとちあき、
こばしがわだいき

2年

【特賞】

(佐敷) 宮城なつは

【優秀賞】

(真和志) みやぎかつみ、はまだひろみ

(佐敷) 佐久間れい子、玉城ひろたか、前城
はな子

【佳作】

(与那城) やましろかなえ (真和志) に
しひらもりくに、ざまみきょうこ、かざまゆ
うき、うえはらゆき、ふるげんさやか、とう
まゆい (佐敷) 西平あずさ、知念なおあき、
狩俣さやか、仲村えいじ、飯田吉騎

【入選】

(与那城) うらそえたつや、あさとあいり、
いけねもと子、よこだかずま (美里) あら
かきはるか (久茂地) 小渡貴己香 (真和
志) 石川まきこ、しまぶくろめぐみ、まきや

あやの、なかちいっぺい、おおしろありさ、
いははるか、やまかどさわ (真壁) 伊禮篤、
儀保一樹 (米須) 玉城みか、徳元船、金城
あやき、大屋あいり (佐敷) 外間たくみ、
仲本泰子、前田えり、津波ゆうすけ、玉城ひ
ろゆき、平田奈津美、石原あきひと、仲里は
やと、桃原徹也、新里有梨奈、玉寄博文、玉
寄きの、赤嶺ゆか、花城たいち、宮城杏菜、
与那城けいた、佐久本菜鈴、仲里奈利子、呉
屋つばさ、吉田まさき、玉城庄子、藤山まな
み、玉城ちひろ、喜屋武とおる、宇根ユキ子、
吉田ひろかず、吉田しのぶ

3年

【特賞】

(真和志) 新城真実

【優秀賞】

(与那城) 宮里大知 (真和志) 大湾有布
子、二階堂育代、斉藤哲 (天妃) 小那覇将

【佳作】

(与那城) 新里志生、根保孝之 (真和志)
許田恵美 (天妃) ながみねまきこ、たもり
ゆうや、はまもとみわ、呉屋みち子、あらか
きりょう、伊禮けんじ (石垣) 嘉良奈央子

【入選】

(与那城) 新里留美、名嘉優子、森本大輔、
中里浩樹、大木ひとみ、山根大作、山田義也、
那覇正、花城隆史、平安座昇竜、久保田陽子、
もりもとはやと、森根奈々恵、田場心悟、照
屋由美、前門由姫乃、照屋勇人、森根美由紀、
山内幸美、前堂裕子 (川崎) 比嘉友理佳
(城東) 森山彩 (真和志) 知念佑里 (城
岳) 上原祐三 (天妃) やまぐちゆかり、大
城まどか、いのはひでこ、寺田愛、みいじゆ
うた (石垣) 内原英聡、入嵩西諭

4年

【特賞】

(川崎) 知念さやか

【優秀賞】

(川崎) 国場翼、仲宗根泉 (美里) ピケット・ジュピター

【佳作】

(川崎) 久保田由美 (美里) 桃原萌子、神村盛久、比嘉慶仁、山城奈苗、當銘功太 (真和志) 潮平梨恵 (上間) 新城太市

【入選】

(川崎) 山田義忠、名嘉俊、安里春香、宮里健史、仲地広幸、平川美香、山田愛香、宇良圭市 (美里) 池原弘貴、山里美佳、田中千花、仲道智也、長浜恵里沙、仲村渠暁仁、真壁辰典、比嘉禅徹、知念洋平、照屋真紀、喜友名朝樹 (真和志) 山城麻希

5年

【特賞】

該当なし

【優秀賞】

(大謝名) 松田祥

【佳作】

(大宮) 大吉明菜 (大謝名) 喜島光幸、玉那覇絵美 (入選)

(大宮) 田仲梓 (西) 島袋慎也 (高江洲) 佐渡山航、山口奈津子 (大謝名) 田場可奈子 (前田) 徳松祥子

6年

【特賞】

該当なし

【優秀賞】

(北谷第二) 福地晴子

【佳作】

(知念) 玉代勢陽子、玉城弘樹

【入選】

(北谷第二) 源河梓、前村由香 (上間)

石川綾乃、諸見里理絵

作文の部

1年

【特賞】

該当なし

【優秀賞】

(泊) やまだえりな

【佳作】

該当なし

【入選】

該当なし

2年

【特賞】

(佐敷) はなしろだいち

【優秀賞】

(泊) とぐちまさひで (佐敷) さくまれいこ (津嘉山) なかんだかりしずか

【佳作】

(佐敷) みやぎなつは、たまきひろたか、まえしろはなこ (津嘉山) 中村晴之、金じょうひろみ、金じょうりえ

(入選)

該当なし

3年

【特賞】

(名護) 津波みなみ

【優秀賞】

(名護) 玉城千明 (前田) 白澤見幸

【佳作】

該当なし

【入選】

(名護) 安谷屋祐二 (美里) ながみねゆか (前田) 武東睦未 (泊) 名城卓哉、岡

田美樹、桑原主税、小野まり子、佐渡山梓
(波照間) 新本百合子

4年

【特賞】

(具志川) 義田真子

【優秀賞】

(具志川) 喜友名礼佳 (佐敷) 玉城洋佳

【佳作】

(坂田) 間忠雄、當眞久美子 (宇米原)
糸満充

【入選】

(白川) 神谷陽子、嘉数千尋、国吉真美、
大城彩子

5年

【特賞】

(兼原) 吉田紗綾

【優秀賞】

(泊) 上間美起子、八島伸太郎 (開南)
玉城ちひろ

【佳作】

(兼原) 仲宗根亮、佐藤祐子 (大謝名)
喜島光幸 (坂田) 屋我安奈 (前田) 東盛
直子 (泊) 宇久田理恵、安里香織、月野辰
郎、金城京奈、宮城絵美

【入選】

(兼原) 首里香奈恵、伊波智子、照屋洋平、
森山元喜 (大謝名) 渡慶次由紀、玉那覇絵
美 (坂田) 屋嘉比朝美 (前田) 山里裕子
(泊) 中村真理、豊見山大志、渡久地真希、
野原麻紀、名嘉村敬、木村桃子 (高嶺) 金
城寿子、狩俣由紀江 (南) 川満町華

6年

【特賞】

該当なし

【優秀賞】

(坂田) 福島伸江

【佳作】

(美里) 神村盛史 (白川) 国吉里奈

【入選】

(白川) 嘉数ななえ、名嘉真結 (津嘉山)
比嘉恭子

〔V〕協賛団体

沖縄電力株式会社

沖縄明治乳業株式会社

株式会社ざまみ

照屋損害保険事務所

株式会社メディックス

宜野湾記念病院

中頭病院

協業組合丸正印刷

明治乳業株式会社那覇事務所

いとむクリニック小児科・内科

伊元小児科医院

おおぞみクリニック

沖縄小児発達センター

垣花小児科医院

岸本こどもクリニック

儀保小児科・内科医院

佐久本小児科医院

たから小児科医院

知念小児科医院

長嶺小児科医院

ふくはら小児科医院

=順不同=

1993年(平成5年)7月29日末
琉球新報 朝刊

図画の講評



比嘉 行男 (元・富里小教諭)

が全員の視野に入って来
る。

感動大切に、楽しく描く

子供たちの描くには、
描かれた応募作品を上げ
る。学年ごとに審査するこ
ちの心に、感銘を与えず
にはおかない絵、一枚一枚
で、今、「友達」「家庭」「遊

現された絵がある。また細
だ。子供たちの発育具合を、
使い豊かな絵があったり
で、実にバラエティー豊か
な作品が多かった事は、子
らのために感性教育にか
けられる現場教師、家庭か
おのおの要業がほゞよく

「をテーマに、題材や技
法が同じでない作品を観点
として審査する。
低中学年では木のほり、
運動会、遊具、心をとらえ
て離さない小動物」と伸び
伸びと感銘的に、大胆に表
現された作品は、
調和、変化ある作品にして
いるからだと思う。
描く時の感動を大切に、
気持ちよく楽しく描ける低
中学年生の絵に、見る人
の心をうつ作品が多くなる
のも自然かなーと思われ
る。

作文の講評



与儀利夫 (元・若狭小校長)

思い、願いを素直に表現

審査員の先生方は心温まる
思いを感じていました。
「友だち」「家族」「遊び」
というテーマから採られる
ことなく、中心点をしぼっ
て、自分の言葉で素直に表
現されていたことに好感を
もちました。
一人の友を、自分も含め
たクラス全員がその友を見
守り、ともに伸びていくこ
とをクラスの雰囲気や心
情が胸をうちました。
身近な友情ということか
ら発展して、最近起こった
また、一時期家族の一人
が欠けることよって、家
族はもろろんであるが、特
に子どもたちのショックが
大きく、表面明るく振る舞
っていても、心の中の暗い
影は消せないでいるその心
情、同時に、はやばやに回
友だちの様子、手にする
ように眺み手に伝わってき
ますし、書いた子どもたち
の心の動きが見えてきまし
た。
そして、社会の現状をよ
くとらえ、自分なりに問題
をしぼり、自分なりに生き
方を考えていることを感
じうれしくなりました。
この「コンクール」は、
作文を書くことよって、
「家族」「友だち」「遊び」
を再認識し、自分をみつめ
なおし、社会をみつめなお
し、人間的に成長を促して
いくよい機会を与えてくれ
たものと思ひ、感謝してい
ます。

審査員の先生方は心温まる
思いを感じていました。
「友だち」「家族」「遊び」
というテーマから採られる
ことなく、中心点をしぼっ
て、自分の言葉で素直に表
現されていたことに好感を
もちました。
一人の友を、自分も含め
たクラス全員がその友を見
守り、ともに伸びていくこ
とをクラスの雰囲気や心
情が胸をうちました。
身近な友情ということか
ら発展して、最近起こった
また、一時期家族の一人
が欠けることよって、家
族はもろろんであるが、特
に子どもたちのショックが
大きく、表面明るく振る舞
っていても、心の中の暗い
影は消せないでいるその心
情、同時に、はやばやに回
友だちの様子、手にする
ように眺み手に伝わってき
ますし、書いた子どもたち
の心の動きが見えてきまし
た。
そして、社会の現状をよ
くとらえ、自分なりに問題
をしぼり、自分なりに生き
方を考えていることを感
じうれしくなりました。
この「コンクール」は、
作文を書くことよって、
「家族」「友だち」「遊び」
を再認識し、自分をみつめ
なおし、社会をみつめなお
し、人間的に成長を促して
いくよい機会を与えてくれ
たものと思ひ、感謝してい
ます。

審査風景



作品のすばらしさを力説する
総評の与儀先生



感動で言葉ありません
子どもたちの思いに先生方も必死!



審査員「ウーム」
審査員「ウーム」
審査員「ウーム」
審査員「力説ぞろいですな〜」



緊張するなあ
わたしうれしい！！



作品の前でポーズ
次はほくだよ！！





「おめでとう」「ありがとうございます。」
はにかんだ様な笑顔からうれしさが伝わって
きます。



晴れ舞台、よろこびが体じゅうからあふれて
います。



わたしたち代表です。
ぼくの番まだかなあ

早く帰ってみんなに渡してあげよう。
チョッとだけ自慢しちゃうかな

〔図画の部〕 特賞作品



特賞 まさとらがんばった
真和志小1年 あさと まさとら



特賞 水あそび
佐敷小2年 宮城 なつは



特賞 タイヤとび
真和志小3年 新城 真実



特賞 こけちゃった
川崎小4年 知念 さやか



おとうさんのにゅういん

篠小 二年 はなしろ だいち

「お父さん、にゅういんてよ。」
しないと、いけないだっとおかあさんがいいまし

た。ほくは、とてもびく
りしました。
「お父さん、だいじょうぶ
かな、しんじゅうんじやな
いかな。」
と喜んでました。でも、
お母さんが「かせをこしら
せたらひだから、すんよ
くなるよ。」
と云ったので、すこしほっ
としました。お父さんをひ
ょういんへ、おへりました。
お父さんは、おかあさんの
車のうしろのせきで、ねて
います。ちっはり、いしも
のお父さんとちがって、お
もしろくておもしろくない
と、びくびくおもいのかな。」
と、ほくは、お父さんのか
おほかりをみていました。
お父さんが、入いりするび
ょうじつにおくって、いき
ました。お父さんは、び
ういんのふくにきがえて、
すくに、ねてしましました。
かんがふさんがすんきて、
てんできをほいめました。
お父さんは、いたそうなか
おせしました。
ほくたちは、ゆうがたに
なったので、かえることに
しました。ほくが、
「お父さん、バイバイ」
と、うとにこくとわらって
と、夕ごはんのとき、うちの
中がシユンとなって、とっ
てもしずかです。お兄ちゃ
んが、じょうだんをいって
も、だれも、わらひません。
こんなことは、もう、いや
です。
「お父さん、はちく、うち
へかえったら、いいなあ」
と思ひました。

「お父さん、にゅういんてよ。」
しないと、いけないだっとおかあさんがいいまし

きよししょう子さんのこと

名護小 三年 つは みなみ

わたしのクラスに、きよししょう子さんという女の子がいます。しょう子さんは、手がふじゆうで、ことばもはつきりしゃべることができません。でも、とてもやさしくて、明るくいつもニコニコしています。

わたしは、二年生の時から、きよししょう子さんと同じクラスでした。その時のしょう子さんは毎日男の子たちになじめられてはなびて

た。でも、ゆう気がなくて、たずけてあげることができませんでした。三年生になってからのしょう子さんは顔の表じょうがとても明るくなりまして、今のクラスには、二年生の時のようなじめじめははいりません。

わたしは、きよ年のように、弱いものいじめをする人が本当は弱虫なんだと思います。それにくびくび、体のふじゆうさに負けないうしょう子さんは、本当の強い人だと思っています。



「おかせい」と声をかけてあげます。すると、しょう子さんは、「うってきます」「や」「たたいま」と書いています。ここにこそ、こしながら口をうごかして

「いいよ」の言える友だち

鼻志川小 四年 義田 真子



「もう、いいかい。」
「まあだよ。」

夕方、家の近くの広場で、かくれんぼをしている声が聞こえてくる。私も仲間に入れてもらおうと思って外に出た。

「私も仲間に入れてちょうだい。」

「いいよ。いっしょに遊ぼう。」

と、言ってくれた。うれしかった。

私は、友だちがいて、ひと安心。だって、友だちがいなければ、いつも一人ぼっちで遊べないから、楽しくない。友だちとお話をしながら遊ぶのが大好き。

「何して遊ぶの？ かげふみしようか。」

でも、私は、友だちとけんかしたことがある。その時はとても困った。「もう、あの人はしゃべれないのかなあ。」と、心配になった。

私はその時、「やっぱり自分からあやまろう。でも、むた。でも、くやしかった。

しされたら、もっと困る。ああ、どうしよう。けんかなんかしなければよかった。」と後かいた。結局、自分から謝らなかつた。

「何日かして、学校の広場でゴム段とびをして遊んでいる時、その子が、

「私も仲間に入れて。」

と、声をかけてきた。私は大きな声で

「いいよ。いっしょに遊ぼう。」

と、答えた。二人ともいっこりした。これで仲直りができたとうれしくなり、ゴム段を高く頭の上にかざした。

私は、学校で友だちがいじめられている所を見たことがある。それは、学校で一番強い男の子が、女の子をいじめていた。私は「かわいそう。いじめるのはやめて。」と言おうとしたが、とうとう何もできなかった。強い男の子に反対するのは、とても勇気がいる。

私はただ見ているだけだった。でも、くやしかった。

私は、その学校で一番強い男の子に、つぎのことが言

ってやられた。

「弱い女の子を泣かすのは弱いな。六年生も五年生とけんかするのが強い人だ。」

最近、ニュースで聞いたんだけど、いじめをする人が多くなっている。グループで一人の子をいじめるなせだろう。それは、一人では弱いくせに、何名か

いっしょになると、強いみたいにしていて。それは、ひきょうだと思ふ。自分がいじめられる立場になつたら、そんなことはできないだろう。自分も痛いめにあつたらどうするのだろう。

学校会でこのことについて話し合つた。いじめをしていたら、友だちは作れない。相手のことを考えることのできる友だちをいっばい作ろうと。

私の大好きな友だちとの出合いは、保育園の頃でした。「友だちになりたいなあ。」と思つて、勇気をふりしほつて声をかけた。言ひ出す前は、とてもはずか

かった。

「友だちになろう。」

「いいよ。」

この「いいよ。」という言葉がかえつてきた時

「ヤッター。」と、さげびたいほどうれしかった。

夕食の時、母に、

「友だちつてそんなに大切なの。」

「そうだよ。とても大切だよ。だって、友だちがいなければ、何して遊ぶの。一人で遊んでも楽しくないでしょう。だから、友だちをいっばい作つてね。あなたの宝物よ。」

私は、母の言葉を聞いて、

「べつに。一人でもいいよ。」

と言う人は、本当の心の中

では「友だちがほしい。」

「べつに。一人でもいいよ。」

と、自分から声をかける勇気がないのだと思ふ。その人にはこちらから声をかけてあげよう。

「いいよ。」の言葉が返つてくる時、きつと新しい友

だちが生まれてくる。

創立20周年記念式典

式典は、「図画・作文コンクール」表彰式終了後に、同じ会場にて行われました。その為、参加者の入れ換えを必要とし、混雑が予想されたが、事務局の配慮により、それほどの混雑もなくスムーズに行われました。

子供達が去り、会場はまた違った雰囲気の中で記念式典を迎えました。司会は福盛久子理事が落ち着いた声で、スムーズに式典の進行を務めました。

開会の挨拶は、大宜見副会長の普段からのパワーを象徴するかのごとく力強い宣言にて始まりました。

続いて沖縄県小児保健協会を代表して小渡会長が挨拶を行いました。小児保健協会は20歳の成人式を迎え一人前となったが、これからも益々の発展を続けなければいけない事を強調しました。また20年の協会の歴史について語りました。そこで、小児保健協会の歴代会長が、子供達の取り巻く環境の著しい変化に対処して、数々の事業をおこなってきた事を述べ、その業績を讃えました。そして何よりも日本全国に誇れる機関紙の発行をおこなってきており、これからも将来の子供達の幸せのために、益々大きな力を注ぎたいと意を新たにしました。そして図画・作文コンクールの事にもふれ、子供達の為にも色々な形で力よく前進して行きたいと述べられました。会長の簡単且つ明瞭な話で、会場は小児保健協会の20年の歩みを十分に理解したかのように大きな拍手が送られました。

表彰では、今まで小児保健協会の活動に貢献のあった方々に会長感謝、会長特別表彰、会長表彰、第一回沖縄小児保健賞が贈られました。中でも会長特別表彰の稲福盛輝・知念正雄・仲里幸子の方々は協会創設以来活動を続けている

3名の方々に本当に頭の下がる思いです。現在も尚沖縄県の小児保健の核となり支えていることはまぎれもない事実です。また、事務局の棚原女子が表彰されたことは、小児保健協会の事務局を10余年も支えてきた功績が認められたのです。現在の協会にはなくてはならない存在です。本当に御苦労さまでした。

第一回沖縄小児保健賞は、最初と言うこともあり、20周年記念式典において表彰することになりました。この賞は、沖縄の小児保健活動に著しく功績があった者で、今後も引き続き活躍が期待される個人または団体を顕彰するものです。注目の第一回受賞は沖縄小児発達センターでした。同センターは今後も沖縄県の肢体不自由の子供達の為に尽力してくれるでしょう。同様な施設が少ない沖縄では、患者の超集中状態が続いています。早く行政的レベルでの解決をして欲しいと思います。

最初の来賓祝辞は、沖縄県知事の祝辞でしたが、ちょうど渡米中でしたので、尚副知事が気品のあるお声で代読なさいました。「次世代の子供達の為に貴協会の働きは益々大きなものとなるでしょう。」と述べられました。

続いて沖縄県市長会副会長の當銘由親市長が「近年の社会変化に伴って益々の努力をお願いします。そして我々も小児保健事業に関して本土との格差を縮めていかななくてはならない。」と述べられました。

次に来賓祝辞を述べられたのは日本小児保健協会長の平山宗宏会長でした。平山会長には沖縄県の小児保健活動に対して色々な御指導をこれまでいく度となく頂きました。今回も20周年記念式典にご出席のために東京よりわざわざお越しくさいました。「沖縄小児保健協会は

全国でも誇れる活動をなさっています。」と述べ花を添えてくれました。

最後の来賓祝辞は沖縄県医師会長の比嘉國郎会長に努めてもらい最後をまとめてもらいました。

つづいて祝電の披露が行われました。多数の祝電が寄せられ、式典を盛り上げてくれました。

10分の休憩後、記念講演が開始されました。講師は琉球大学法文学部の比嘉政夫教授をお招きして行われました。演題は「アジアの子ども沖縄の子ども」で、社会人類学を研究なさっておられる比嘉教授はアジアの子供達と大人のかかわり方を紹介しながら、沖縄における現在社会、地域社会の崩壊を指摘なされました。これからの人間の組織は如何にあるべきかを検討することが大切で、健全な地域社会を作る為のシ

ステムづくりをしなければならないと強調していました。比嘉教授の講演を聞き、現在の祖父母は孫の面倒をみる余裕がない為、子供達との関係がうまく確立されず、そこで地域社会の形成が崩壊しているのではないかと。我々が日頃から地域社会を大切にしなければならないことを肝に命じなければと思った。講演は会場より割れるような拍手でもって終了しました。

最後の閉会の辞は、仲里副会長が、ナイチンゲールの心を持って参加者にお礼を申し上げ全てを終了しました。

会場は全てを終了した事務局の安堵感が伝わってきました。そして現在の理事が集まり記念撮影も行われました。

理事 宮城雅也

[I] 式典プログラム

司 会 福 盛 久 子

- | | | |
|------------|---|--|
| 1. 開会のあいさつ | 沖縄県小児保健協会副会長 | 大宜見 義 夫 |
| 2. あ い さ つ | 沖縄県小児保健協会会長 | 小 渡 有 明 |
| 3. 表 彰 | 会長感謝、会長特別表彰、会長表彰
第1回沖縄小児保健賞表彰 | |
| 4. 来 賓 祝 辞 | 沖縄県知事
沖縄県市長会長
日本小児保健協会会長
沖縄県医師会長 | 大 田 昌 秀
親 泊 康 晴
平 山 宗 宏
比 嘉 國 郎 |
| 5. 祝 電 披 露 | | |
| 6. 記 念 講 演 | 琉球大学法文学部教授
「アジアの子ども 沖縄の子ども」 | 比 嘉 政 夫 |
| 7. 閉会のあいさつ | 沖縄県小児保健協会副会長 | 仲 里 幸 子 |

〔Ⅱ〕 創立20周年記念表彰者名簿

沖縄県小児保健協会創立20周年を記念し、これまでに協会に貢献した役員並びに職員の表彰を行った。

会長感謝（3名）

氏名	所属	勤務先	住所
宮城英雅	宮城小児科医院	那覇市牧志2-16-5	〒900
山本達人	山本医院	嘉手納町嘉手納286	〒904-02
佐久本政彦	佐久本小児科医院	那覇市首里鳥堀町1-25	〒903

会長特別表彰（3名）

氏名	所属	勤務先	住所
稲福盛輝	稲福医院	那覇市首里池端町37	〒903
知念正雄	知念小児科医院	具志川市字宮里261-16	〒904-22
仲里幸子	沖縄県立沖縄看護学校	那覇市与儀1-24-1	〒902

会長表彰（11名）

氏名	所属	勤務先	住所
原 實		那覇市若狭1-2-24	〒900
池宮喜春	勸沖縄県総合保健協会	南風原町字宮平212	〒901-11
許田英子	沖縄県消費生活センター	那覇市寄宮2-1-18	〒902
古謝フミ子	沖縄県病院管理局管理課	那覇市泉崎1-2-2	〒900
安次嶺馨	沖縄県立中部病院	具志川市字宮里208-3	〒904-22
宮城シゲ	社沖縄県看護協会	南風原町字与那覇460	〒901-11
大宜見義夫	おおぎみクリニック	西原町翁長393	〒903-01
長嶺由治	長嶺小児科医院	浦添市仲間1502-1	〒901-21
落合靖男	沖縄小児発達センター	沖縄市比屋根629	〒904-21
玉盛尚	沖縄県中央保健所	那覇市寄宮2-4-1	〒902
崎山信幸	勸沖縄県総合保健協会	南風原町字宮平212	〒901-11

表彰（1名）

氏名	所属	勤務先	住所
棚原睦子	社沖縄県小児保健協会	那覇市旭町35	〒900

記念式典スナップ



小渡会長あいさつ



尚副知事あいさつ



当銘市長副会長あいさつ



平山日本小児保健協会会長



比嘉県医師会長あいさつ



池宮喜春氏
から贈られた花束

会長表彰
池宮喜春氏



会長表彰を目前に



記念講演
比嘉政夫先生

理事及び職員の記念スナップ



- | | | | | | | | | |
|------|-------|------|-------|------|------|------|------|-------|
| 宮城雅也 | 玉那覇栄一 | 福盛久子 | 高良聡子 | 津留文子 | 新里厚子 | 池城毅 | 棚原睦子 | 饒平名艶子 |
| 石川清治 | 知念正雄 | 稲福盛輝 | 大宜見義夫 | 小渡有明 | 仲里幸子 | 安次嶺馨 | 落合靖男 | |



伊元幸信



仲村幸子



波川明美

創立20周年記念祝賀会

祝賀会は午後5時より、式典会場隣の守礼の間にて行われました。最初は準備した料理がかなり余ってしまうのではないかと出席ぐあいを心配していましたが、祝賀会が始まると、出席者はかなりの数となり、会場に入らないのではないかと心配するほどにいっぱいとなりました。

司会は事務局の棚原女子が務めました。式典も無事終了し安心したのか、堅さはまったくみられませんでした。

恒例どおり最初は会長の挨拶でしたが、その日は実に3回目の挨拶なので少々疲れぎみでもありました。「本日三度目の挨拶なので何を話していいのかわかっておりません。」と述べながらも、いつもの軽快な口調で挨拶を終えました。

その後の「お祝いのことば」では、最初に東

京大学の日暮眞教授がユーモア溢れる挨拶を、続いて沖縄県人材育成財団の津留健二理事長が、原稿なしにもかかわらず水が流れるような挨拶で会場は益々の盛り上がりを見せました。最後に、沖縄県環境保健部の砂川恵徹部長の乾杯のあいさつで最高潮に達しました。そして、歓談の時間となり、20年の思い出を各々で語り、あちらこちらで懐念の花が咲きました。そうして誰もが、閉会の挨拶にて時間が過ぎ去ったことを感じたのでした。「沖縄県小児保健協会の皆さん、子ども達の心身供の健康の為、聡明な舵をとりつづけてください！」

理事 宮城雅也

ユーモアあいつつ大賞
日暮眞氏



流暢あいつつ大賞
津留健二氏



かんぱい大賞
砂川恵徹氏



二十歳のかんぱい

沖 縄 小 児 保 健 賞

沖縄小児保健賞は、沖縄県小児保健協会が平成4年に第44回保健文化賞を受賞したのを記念し、平成5年に設定した。

この賞は、沖縄の小児保健活動に著しく功績があった者で、今後も引き続き活躍が期待される個人または団体を顕彰するものである。

第1回表彰式は、記念するために特別に平成5年7月31日の沖縄県小児保健協会創立20周年記念式典において行われた。第2回表彰式からは、定期総会に於いて挙行される。

第1回沖縄小児保健賞受賞団体

沖縄小児発達センター

沖縄小児発達センターは、昭和53年8月社会福祉法人沖縄肢体不自由児協会沖縄整肢療護園中部分園として、中北部地域における肢体不自由児の療育に対応するため沖縄市に開園された。

そのことは、中北部地域の肢体不自由児の療

育機会が拡大され、療育の必要な子どもたちに人間として生きる勇気と希望を与えることにつながった。

開園以来、院長をはじめ、職員全員が一丸となって、沖縄全島における障害児の早期発見、早期治療、早期療育システムの確立に向け、園内業務のみならず関係機関や地域の関係者と連携を図り地域活動にも積極的に活躍している。北部、宮古、八重山地区の定期巡回療育相談事業を開設する他、各保健所における発達クリニックの技術援助等と幅広い活動を行っている。

昭和63年1月、沖縄整肢療護園中部分園の名称を沖縄小児発達センターに改称し、療育対象疾病の拡大と、開園以来目ざし続けてきたノーマライゼーションの確立に向け、地域に開かれた施設として、地域交流ホームを併設するなど、幅広い心身障害児の医療・保健・福祉に対する貢献は顕著でまことに大である。

第1回沖縄小児保健賞の表彰 沖縄小児発達センターを代表し落合靖男院長

